

Title	(1) 特別講演 : 現在の韓国の歯科大学の状況
Author(s)	鄭, 翰聖
Journal	歯科学報, 111(1): 3-3
URL	http://hdl.handle.net/10130/2290
Right	

(1)特別講演

現在の韓国の歯科大学の状況

鄭 翰 聖

延世大学校歯科大学・東京歯科大学客員教授

韓国には11校の歯科大学(ソウルには3つ, ソウル国立大学と私立の延世大学, 慶熙大学)があり, 毎年約800人のDDSを輩出している。韓国の歯科大学は医科大学より偏差値が高く, ソーシャルステータスのみならずエコノミカル・シチュエーションも良い。

延世大学は, 1915年にアメリカ型のミッションリースクールとして創立されたが, 歯科大学校は, 延世大学歯学部の前代学長が東京歯科大学出身であったことから, 日本のシステムを用いて6年制とされた。したがって, 臨床はアメリカのシステムでありながら, 教育自体は日本のシステムが採られ, 2年間の予科と4年間の歯科大学教育修了後, 国家試験を受け歯科医師(DDS)になるという6年制度が維持されてきた。

しかしながら, 2005年から従来の上記制度が大きく変更され, 通常の学部(歯学部以外, 4年間, BD)を終了した後, Dental Education Eligibility Test(DEET)をパスすれば, 4年間のGraduate school(Dental school)コースに入り, 歯科医(Doctor of Dental Surgery, DDS+MSD)の資格を取得できるようになった。更にその後, 3年間の博士(PhD)コースを選択することも可能である。その間に, 男性は3年間の軍隊生活の義務がある。

また, 歯科大学の制度の変更に伴い, 教員採用制

度も変更された(Newly Appointed Academic Staff)。延世大学を例にとると, DDSを取得した後, 8年後には, Assistant Professor(助教授)に, 14年後には Associate Professor(准教授)に, 19年後には Professor(教授, Full Professor, Tenure)に応募することができる。しかし, 応募のための条件は日本より厳しく, 助教授(基礎)は論文4本, IF(Impact Factor)12, 助教授(臨床)は論文3本, IF4, 准教授(基礎)は論文7本, IF25, 准教授(臨床)は論文5本, IF6, 教授(基礎)は論文7本, IF31, 教授(臨床)は論文6本, IF12がそれぞれ必要となる。しかも, 以上の論文は, Main Author(First Author か Corresponding Author)に限定され, 過去4年のみが適用される。つまりは, たとえ5年前に「Nature」誌に10編論文が掲載されたとしても全く計上されない。また, 任期(助教授と准教授)は2年であり, 昇進制度も日本より厳しい。研究以外に教育, 臨床において細かくポイントが決められており, 教授や大学の執行部であっても安穩としていられない。

以上, 韓国の歯科大学の現況を概括したが, 各歯科大学個別の事情があり, 現在は試行錯誤の段階である。臨床・基礎を融合した形で研究が活性化するように, 前向きな姿勢で改革する必要があると考える。